

「悪石島小・中学校の悪石島のボゼ（盆踊り）伝承活動の取組」

1 学校名

十島村立悪石島小・中学校

2 学年・人数

小学生 7名（1年 2名，5年 4名，6年 1名）

中学生 4名（1年 2名，2年 1名，3年 1名） 計11名

3 日時・場所

(1) 日時

令和2年8月25日～9月3日（旧暦7月7日～16日）

20:30～21:30，16:00～18:00，15:30～17:30

(2) 場所

悪石島公民館・テラ（墓地）等

- ・旧暦7月7日：七夕 夜の盆踊り始め
- ・旧暦7月13日：花たて打ち
- ・旧暦7月14日：水祭り 盆踊り（テラ→公民館）
- ・旧暦7月15日：水祭り 盆踊り（公民館→テラ）
- ・旧暦7月16日：ボゼ祭り

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

悪石島のボゼ（あくせきじまのボゼ）

（国指定重要無形民俗文化財 平成29年3月3日）

（ユネスコ無形文化遺産登録 平成30年11月29日）

(2) 由来

ボゼは盆の終わりに現れ盆行事の幕を引くことで、仏を拝む盆行事に熱中した人々を、太陽の輝く日常の力強い新たな生の世界へ引き戻し、転換させ甦らせる役目をもつとされる。ボゼは、体中や持っているマラ棒の先端についた赤土を人々に擦り付ける。ボゼには、盆時期に先祖の霊とともに現世にやってくる悪霊を追い払い幸をもたらす力がある。

(3) 構成等

旧暦7月16日には、テラに集まり男性(小学生の女子も含む)のみで盆踊りを行い、その後公民館に移動して再び盆踊りが行われる。ここで、島民による口上が述べられ、呼び出しと太鼓の音に導かれ3体のボゼが出現する。ボゼが帰った後、最後の踊り（ニワモドシ）が行われる。盆踊りで行われる踊りは、ところ（場所）・ときを定めて決まった種類の踊りが踊られる。代々口伝のみで伝えられて、受け継がれてきている。また、盆踊り終了後に子どもたちは「ハッパン大将」という踊りを披露する。

5 保存会や地域との連携の具体

盆踊りは、踊るところ、ときが定められ、先祖の霊や神・仏に奉納するものとされているので、お盆以外に踊られることはなく、伝承も口伝のみとなっている。そのため初めて参加する者は、実際の踊りの中に入り、島民が踊っている姿を参考に、見よう見まねで覚えるしかなかった。しかし、現在「盆踊り保存会」が踊りを伝え、子どもたちにも継承されている。

教職員も、島民の一員として積極的に参加し、真剣に取り組んでいる。踊りは男性のみであるが、女性は各家庭での御盆行事や食事の準備等で大忙しの中、踊りの合いの手などで参加し、場を盛り上げてくれる。まさに島が一丸となり取り組む姿から、郷土の伝統文化への誇りと熱い思いを知ることができる。

また、「ハッパン大将」を保存会や地域の方の協力のもと、平成29年度から復活させている。夏休みに保存会や地域、教職員の指導の下、子どもたちは「ハッパン大将」を練習している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝統を引き継いでいこうという思いから、盆踊り保存会が発足している。その取組として、盆踊り期間中に、子どもたちや教職員、Iターン者への講習会が行われている。今までは、見よう見まねで覚えるしかなかった踊りだが、講習会で、唄われる歌詞の意味や踊りの一挙手一投足について細やかな指導がなされている。次の世代へと伝統を引き継ぎ、守っていくうえで、大変有意義であると考えられる。子どもたちも楽しく参加し、島の伝統を引き継ぐことの大切さを実感している。

7 取組の様子



公民館での盆踊り



悪石島のボゼ



テラスでの盆踊り



ハッパン大将

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

講習会で、盆踊りの動きについて詳しく知ることができた。しっかりと伝統を受け継いでいきたい。また、ハッパン大将の後に、よかったよとたくさんの人から声もかけられてうれしかった。

【教員】

盆踊りの踊りやハッパン大将を覚え、子どもたちに伝承していくことができた。今後も地域とともに伝承活動に頑張りたい。

【保存会】

昔から当たり前にしてきたことが、世界的に評価されていることがうれしい。その伝統を、次の世代にしっかりと引き継ぐことが重要であると考えている。悪石島の伝統が途絶えないように、若い世代への橋渡し役として、島民一丸となって頑張りたい。